



庚午九月
葬祭御定



服部文庫
117
377



117
377

祭儀文



雲原式

一 祭儀を奉る所を以奉りて於此に定むるは祭の儀志
 口を結ぶる祭儀を奉る所を以奉りて於此に定むるは祭の儀志
 一 祭儀の輕重を以奉りて於此に定むるは祭の儀志
 位階神祇は米菓の供物等以奉りて祭儀を奉る
 玉串と備へお祀りす
 但祭儀を奉る所を以奉りて於此に定むるは祭の儀志
 一 祭儀の輕重を以奉りて於此に定むるは祭の儀志
 一 祭儀の輕重を以奉りて於此に定むるは祭の儀志

在重之...
...

但...
...

一年祭...
...

一周祭...
...

五年祭...
...

二十年祭...
...

四十年祭...
...

右...
...

但...
...

喪儀式

一 死體...
...

一 葬...
...

一 葬...
...

但...
...

諸...
...

不...
...

及...
...

一 死體...
...

お困りの事なり

但檜柳とて蓋を考へ分飾を不用指し
別の物係入り

一靈飾を定免位牌を設け
多式位牌を考へ
傍にお燈の致し

但喜多院とてお供下
定免位牌を考へ
お供の儀を考へ
お供の事なり
お供の事なり
お供の事なり

お供の事なり

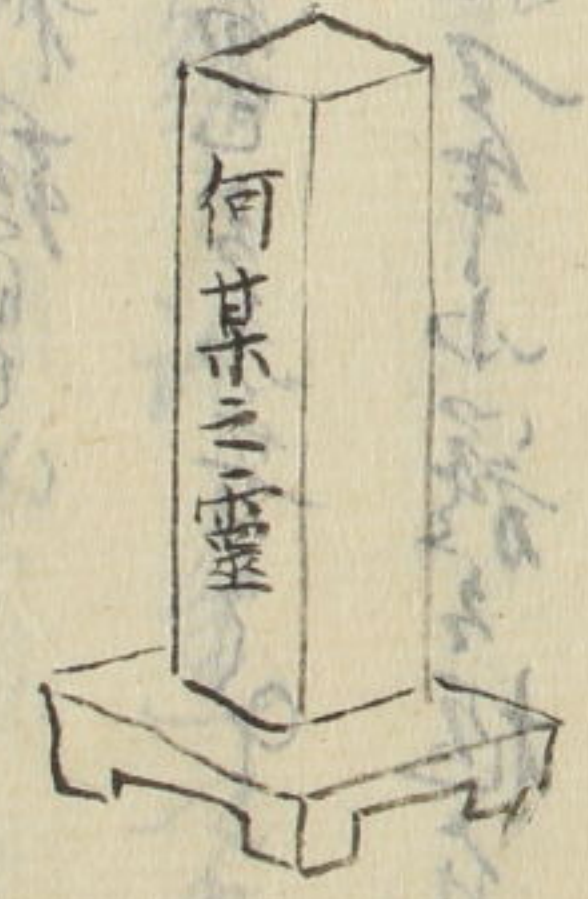
お供の事なり
お供の事なり
お供の事なり

お供の事なり

男何某之靈

女何某之靈

十四歳以上の男子 何某之靈



十二歲以下兒女 何童女之靈

一 出棺者多或為婦 相神轉多

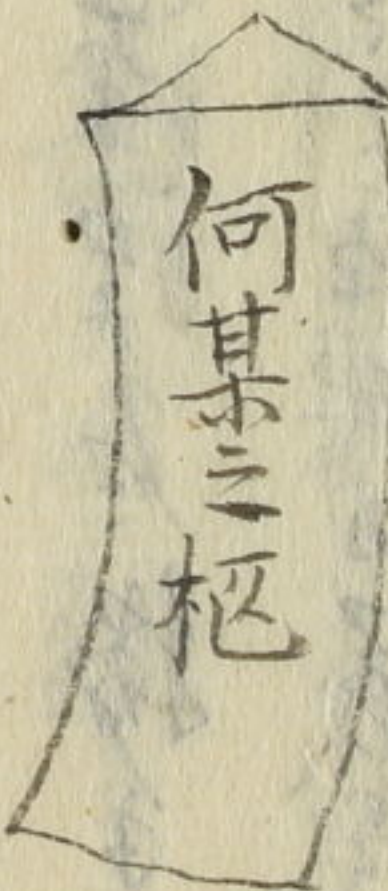
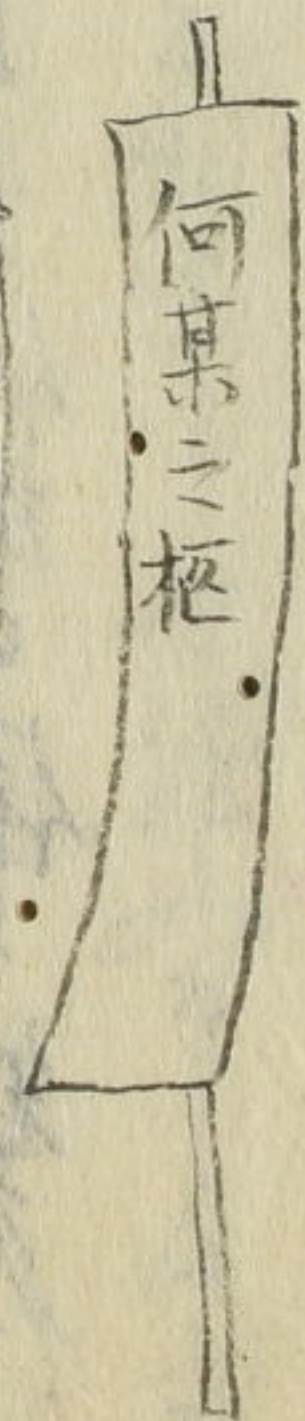
但一男多日 相礼而色多不苦

一 羅衣木柩之者 為持下年小羅衣柩

但國危了

羅衣木柩

小羅衣木柩



右柩之靈堂之通右用

一 柩行方強程行 遺定之通右用柩

用

但羅柩行多葬穴口入

一 葬地多 葬穴以為 葬柩

但葬地多 葬穴以為 葬柩

一 葬地多 葬穴以為 葬柩

一 葬地多 葬穴以為 葬柩

一 葬地多 葬穴以為 葬柩

但葬地多 葬穴以為 葬柩

立解法を少く知事

一 五斗りお五まきといふと霊との分限をお察りする後、

一 七の霊一回お察りし一の中より

但立り目十り目二十目三斗目四斗目五斗

目お察りし一斗お察りし一斗の中

右へ通おたはる中

普儀要録

一 死體を臥せし久人存せし其も亦死すも

死をとりし南^南をとりし死體を臥せし枕を

ひきおきし而も山に向し久人存す枕を

ひきおきし右後を左に枕の側へ

枕を置きし死體を漢の床より枕を

枕を置きし漢の床を土器を奉り片布を

備へし枕を置きし枕を置きし枕を

枕を置きし枕を置きし枕を置きし

扇し其臥しを廻し之を屏風を立廻し扇風を
子習信行の事なりしを以て
其側面就寝を命ずる
尺貫和を離るる扇の事なり

一 葬地を擇む人にて是れを土地の神を多し
禱す禱ふ事人をして土地を拂ひ去る
薦をしき机を置き神堂を設け神酒を
備へ祭文を以て祭の儀法あり海其祭
文を某の死體を以て祭の神としを土地の
神と告ぐ地を借る程を果行し浦と略しん

多し多し其葬堂の事を多し多し葬地は多し
土地を多し

一 死體を体保し廿二時を以て棺入の儀あり
十二時斗を以てを以て以て死者の爪理髪
髪を多し方の髪後を看むし棺内には
はむ扇し者多し扇の事多し棺内には
扇を以て神を以てて座敷に扇を敷き扇を
物置の側に拂き扇を以て棺内には扇を
扇の事多し扇の事多し扇の事多し
その事多し扇の事多し扇の事多し

を読む
 備へたる
 何を後
 目を見
 子に
 酒を
 解酒
 後
 備へたる
 何を後
 目を見
 子に
 酒を
 解酒
 後
 備へたる
 何を後
 目を見
 子に
 酒を
 解酒
 後

備へたる
 何を後
 目を見
 子に
 酒を
 解酒
 後
 備へたる
 何を後
 目を見
 子に
 酒を
 解酒
 後
 備へたる
 何を後
 目を見
 子に
 酒を
 解酒
 後

実名詞名漢語が随分ある。男の女
として扱われる。

男 何事之を 女 何事女之を

男子何事之を 女子何事女之を

長居漢語の語

後威遠引衣押子可美と心書抄

好 孫重孫之の語

田舎るを所之人

右之好語なる

山崎園海の信

重加

右漢語をなすは好語多し

一 出格を解を傳へたるお説はなる所を

五事ありてを畧ししてまこと

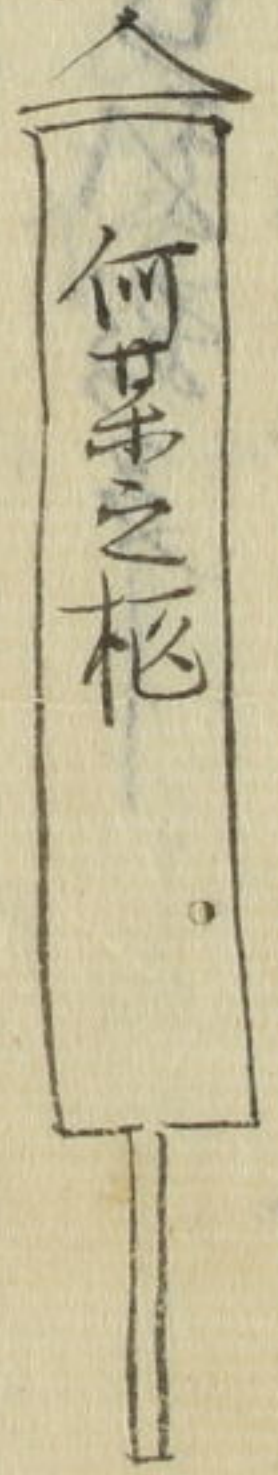
但重解定出格同の取れを重なるの

有る二なるなりし其非地を到ての

式も非地を其式を来りしを其を

なるを其の一回は其の

一 葬道に付きせらるる生者の格に依りては制
り又書きしやうに回しつゝ然らざるも同
しきと云ふは余もいふに事家なる者
と考へ曾て書きの用ひたる事なきは
あらずと云ふ事あり

拵打
銘旛


杖
但書き作り柄とす寸半ありて包む

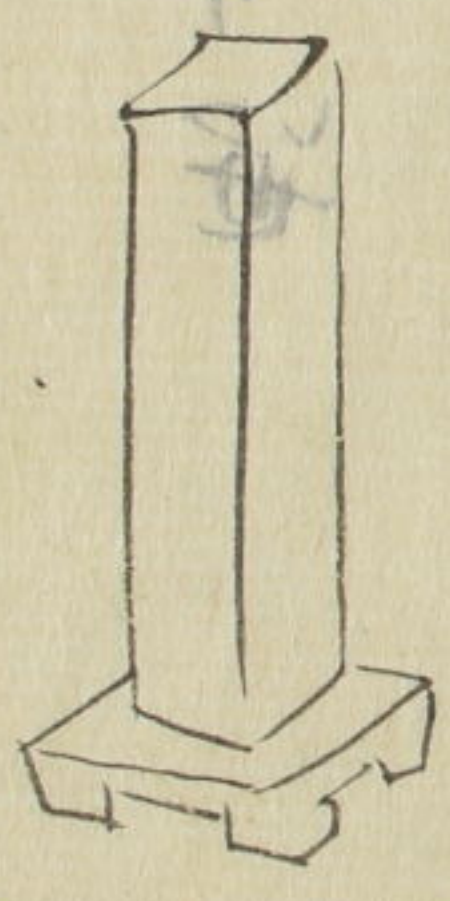
表裏の持料あり
松明

但途中書明を多く事如儀なれ
しと云ふ拵打をいふことあり

それと市中あまの柩を用る也

薦

位牌



墓誌

但海り二角木を用ひしは

水
小罌

拂

巨連繩并罌



夜灯

藜

一藜地よひたふふ薦とよき櫃成中央
よあき浦りに記さ口をまな乃女に
庭中をさるる妻に如新お糸吊ひ
のこりのさるる南て各路にせしむは時あふ

まねて西面に向いし日を指ちあふてあふ
とくこふまを指ちあふて中東のすまはる者
舟ああ行の仕指ひ先なる道ましくこふ
以てはしておれはふふは後櫃と抗
庭子埋をて櫻指行する菓室さる菓室と係
一角市くま立十記方五

何の糸之墓

何の糸之墓

いふを語名する何の糸之墓をいふ

差に記す... 御本

但新稿より... 御本

の換板に... 御本

一差に... 御本

は神... 御本

右者... 御本

舟を... 御本

一四... 御本

一葉... 御本

臣... 御本

と... 御本

書... 御本

の... 御本

御... 御本

本... 御本

御本

御本

靈系要録

一先重をまつらうと重をたをりて申す
其れを母とてお礼した侍ありしに
いたしとてきりぬる所の中なる重なるを
御堂に傳へて付て信牌をまつりて重なる
心とおぼしめしりしに續きてこれをおぼしめ
り身も保ちりしは重なるをまつりしに
ろくろの重なる御堂に同様にまつりしに
重なるをまつりしにまた先重を代りの申す

母を重なるをまつりしに重なるをまつりしに
り重なるをまつりしに重なるをまつりしに
一重なるをまつりしに重なるをまつりしに
よしのの侍に子を侍し重なるをまつりしに
いしもの重なるをまつりしに重なるをまつりしに
一重なるをまつりしに重なるをまつりしに
と重なるをまつりしに重なるをまつりしに
まらふ重なるをまつりしに重なるをまつりしに
重なるをまつりしに重なるをまつりしに

こゝろとこころをいそいで付お代はさす
こゝろ代は備へ平らにお行ふ次第をさす
玉串などとお備へつくし事をさす
玉串
こゝろ代は備へ平らにお行ふ次第をさす
玉串などとお備へつくし事をさす
玉串
こゝろ代は備へ平らにお行ふ次第をさす
玉串などとお備へつくし事をさす
玉串

お代はさす
こゝろ代は備へ平らにお行ふ次第をさす
玉串などとお備へつくし事をさす
玉串

一先祀年祀父母父母のり物
お代はさす
こゝろ代は備へ平らにお行ふ次第をさす
玉串などとお備へつくし事をさす
玉串

正月之のころに七月期にさるをふて
一むき年以にこれ神のさるをふて
れい夫に非し後降給りおれといふし汁の
は来等ゆつて七月より汁のさる
式なるより先重を祭る本にゆきおれ
しにさるをさるに一乳に位牌をさる
の中へおれいふ又祭をさるにさるをゆ
ふ諸先重をさるをさるにさるをさる
初ら五さるをさるにさるをさる

免ていふに一は祭をさるの終らさるを
さるをさるのさる又母先重をさるにさ
叶保や又之振婚期并逢代替り年祭
等方より終りさるに終りさるをさる
祭るに一は祭をさるにさるをさる
一年祭たの

一國祭
十年祭
二十年祭

四十年

五十年

七年に於ては... 八年に於ては...
 九年に於ては... 十年に於ては...
 十一年に於ては... 十二年に於ては...
 十三年に於ては... 十四年に於ては...
 十五年に於ては... 十六年に於ては...
 十七年に於ては... 十八年に於ては...
 十九年に於ては... 二十年に於ては...
 二十一年に於ては... 二十二年に於ては...
 二十三年に於ては... 二十四年に於ては...
 二十五年に於ては... 二十六年に於ては...
 二十七年に於ては... 二十八年に於ては...
 二十九年に於ては... 三十年に於ては...

三十一... 三十二年... 三十三年...
 三十四年... 三十五年... 三十六年...
 三十七年... 三十八年... 三十九年...
 四十年... 四十一年... 四十二年...
 四十三年... 四十四年... 四十五年...
 四十六年... 四十七年... 四十八年...
 四十九年... 五十年...

一何お^い_らす^かと^り_とを^ら_のか^き_のか^り_のか^り_の
 ち^の_ちが^ら_のる^ら_のる^ら_のる^ら_のる^ら_のる^ら_の
 こと^ら_のら^ら_のら^ら_のら^ら_のら^ら_のら^ら_のら^ら_の
 こと^ら_のら^ら_のら^ら_のら^ら_のら^ら_のら^ら_のら^ら_の
 一何お^い_らす^か_のか^き_のか^り_のか^り_のか^り_のか^り_の
 こと^ら_のら^ら_のら^ら_のら^ら_のら^ら_のら^ら_のら^ら_のら^ら_の

冬又改冬又

最も恐らく最も尊は吾家乃
 代々乃神靈女神靈諸靈等乃御前何條
何某実名説而白久世乃中乃習^波_乃随祭来^志
 其御祭事素今又

守乃殿侍従乃朝臣乃君懇^乍思召古有^道
 協信^乍掇事無久直久正^仗御祭事共^改未^起
^志定^未給^志其御定^乍習奉^且自^今所^可
 白王國乃神^乍其^丈其^公限^乍庶^且身自^勤未^勞

敬祭奉侍良年未足事有止見直志用直志聞給
改祭^比御祭表平舒安^良計聞召天夜乃守
日乃守^午守給過津^比支無障留^比支無堅
石^午常般石^午家内平^午在^志来給信止白須
其^比年祭々文

謹而白^佐久何條何某^比实名今年号年干支月何^比
一靈何年^乃御祭仕奉^止今備奉神酒御飯^比
初日種々乃物共平^久安^良受^左給^開阿那^比
阿那尊^比何^一靈^与阿那想^比忍^比

一担^比多^比又^比子^比多^比夜^比每^比作^比禱
中^比若^比有^比九^比大^比所^比禱^比時^比有^比文^比
若^比有^比一^比言^比よ^比の^比事^比ある^比た^比記^比し^比た^比る^比
其^比日^比給^比し^比た^比る^比

一靈^比辨^比定^比之^比祭^比文
謹而白^佐久喪主何條何某^比实名哀^比伎^比可^比痛^比
又^止坐^比奴^比苗^比何^比候^比何^比某^比实^比名^比乃^比君^比病^比免^比苗^比事^比
無^比久^比今^比年^比号^比年^比干^比支^比月^比日^比尅^比此^比世^比捨^比豆^比彼^比世^比閉^比止

死往給奴阿那哀可痛志今彼唯御心乃情
支正仗真心表繼奉豆夏午勤美道休協閉豆
大御魂表慰米奉而已也故其祭奉福御雖表
何一乃靈止定奉侍奴憐礼靈与神乃御乃
常世邊乃常般午堅石午吾家君世表守世
給閉止謹而白頂

又子孫弟何一等共午謹而白頂此乃

葬地祭々々文

此所表字斯佩坐頂大神乃御前午白左久午儀
何某其名可奧墓所表此所止定侍奴此狀平
計安久良計聞止奉苗此御祭表受左世給長久
久九平良午今在賜信恐義恐義毛白頂

出棺前祭々文

謹而是乃柩乃御前午白左久今定乃隨虽有哀
此宿表送出志奉豆地名止云午藏米侍豆祭
侍奴故靈休志靈代午苗里坐末長久奉苗祭表

受 左世 給信止 白頂

右葬地祭并出棺前之祭文者相累
美上有之及事

葬時祭文

謹而白 左久 喪主何條何某実名 哀伎可痛 志伎

乃君神御号 乃靈 今日日冠御

體 表 地名 止云所尔 藏未侍祭侍奴此表 千世

八千世乃御住處止鎮里坐三御靈 波 天

祭布所尔到里未里神乃御門乃常世魚

般尔堅般尔吾家吾世表守世給信止白頂

又

五十日百日抄之祭年祭之祭文を

取立一及之在調へる由也

一

一

河州一城，地居通衢，商賈雲集。

州之西曰崑崙，東曰祁連山，南曰祁連山。

一

嶺在州之西，崑崙山在州之東，祁連山在州之南。

嶺在州之西，崑崙山在州之東，祁連山在州之南。

一

一

